

## 竹内さんのウクライナ便り

来年は、欧州サッカー選手権大会がポーランドとウクライナで開催されるということで、キエフ市庁舎の正面入口上に「同大会開始まであと〇日〇時間・・・」という秒刻みのデジタルカウントダウン計(?)が設置されましたが、およそスポーツに関心のない私は、いつそれが始まるのか覚えていません。1年以内だということくらいは理解しているのですが、決勝戦が行われるという都心の国立スタジアムも、せっせと改築されており、そのそばでは新しいビルの建設が進んでいます。ウクライナでは、キエフ以外の3市でも試合があるそうですが、それぞれ準備が行われているでしょう。この催しのため多額の国費が投入されており、各種の法的措置も取られていて、例えば「同大会にあわせて一定の商品につき輸入関税を免除する」という決定が下されました。しかしその商品の中には、「毛皮の衣類」「香水・化粧品」「織機」など、サッカーとの関連性を認めにくいものも多々含まれており、同大会組織委員会は、さすがにリストの見直しを表明したとのこと。いずれにせよ、この一大イベントに伴って動く多額のお金にたかって、多くの政治家・実業家がうまい汁を吸おうとしているだろうことは想像に難くありません。反政府系の雑誌では、「誰のための大会か?」と題した特集も組まれています。

一方で、職権濫用などを理由とする元与党・現野党の政治家たちの裁判は続いており、特に「ウクライナの国益を損うガス価格協定をロシアと結んだ」ことでも罪に問われているティモシェンコ前首相の刑事事件については、民主主義にもとるものとして西側諸国が憂慮を表明しており、元在ウクライナアメリカ大使は、「この裁判は、来るべき最高会議選挙に向けて、野党のリーダーである彼女を排除しておこうとする試みである」との意見を、ウクライナの英字新聞に寄稿しています。ヤヌコーヴィチ大統領はEU加盟の目標を掲げており、年内にEUとの連合協定を締結したいとしています。上記元アメリカ大使は「民主主義の原則の侵害がこのまま続くようであ



＜記者会見で通訳中の竹内さん（右）＞

れば、キエフとヨーロッパの距離は開くばかり」と決めつけています。一方、ティモシェンコ氏は法廷で裁判官たちに対する不信を露呈、弁護士を排除して自らの弁護にあたるというきわめて強気の姿勢を見せていますが、その態度がやや虚勢じみて感じられるのも事実で、国民の間に「民主主義の原則の侵害」が行われているという危機感が、どの程度強まっているかは疑問です。

とはいうものの、8月下旬に独立20周年を控えたウクライナで、祝祭の雰囲気は広まっているとはお世辞にも言い難く、むしろこの20年は何だったのか、一握りの政治家・官僚・財界人によって国富がわがものにされただけだったのではないかと、という苦い認識も一部にはあります。IMFの融資を受けるにあたっての条件の一つだった年金改革の法案も最近可決され、「女性の老齢年金受給年齢が現行の55歳から段階的に60歳まで引き上げられる」「年金受給のために必要な労働年数が10年上乘せになる」などの変更が行われることになりました。しかし、現在年金総額が国内総生産の18%を占める一方で、平均年金額（約12,000円/月）がヨーロッパ諸国中最低という現状が、この改革によりどれほど改善されるのかはよくわかりません。現在、約10万円/月以上の年金をもらっているウクライナ国民は4,000人程度に過ぎないそうですが、今回の改革により、老齢年金の最高額は最低年金額（約7,600円/月）の10倍に抑えられる由。ちなみに現在の最高額は45万円/月ほどで、国家英雄のテストパイロットが支給されているとのこと。

(7月29日)